

2022. 4. 22

山陽

防災心構え カレンダーに

減災に向けた保健師の役割を研究している吉備国際大保健医療福祉学部の高尾茂子准教授（公衆衛生看護学）らのグループが、災害に備える心構えを説いた2022年度版カレンダーを製作した。

グループは、東日本大震災（2011年）や西日本豪雨（18年）

保健師の助言紹介

4月から始まる月めくりで、見開きA4判カラ

り、「つながることが防災・減災」（9月）、「市民中心の地域づくり」（10月）など月ごとにテーマを設定した。5月の「子どもと災害」では、おやつやおもちやを避難時に携行することで慣れない環境に置かれる子どもの精神的安定につながる」といった解説をイラストとともに紹介している。

1. 「つながることが防災・減災」（9月）、「市民中心の地域づくり」（10月）など月ごとにテーマを設定した。5月の「子どもと災害」では、おやつやおもちやを避難時に携行することで慣れない環境に置かれる子どもの精神的安定につながる」といった解説をイラストとともに紹介している。

保健師を中心に、日常に潜む課題を見つけ出し、しておくなど有効な備えも例示。熊本地震、西日本豪雨といった主な災害の発生日も記している。

高尾准教授は「いつも揭示しているカレンダーなら目に留まりやすい。減災に役立ててほしい」と話す。

国の科学研究費助成を受け500部作成。高梁市を通じて市内の防災士や自主防災組織などに配った。（岡崎創史）

吉備国大・高尾准教授ら製作

減災に向けた保健師の役割を研究している

吉備国際大保健医療福祉

学部の高尾茂子准教授（公衆衛生看護学）

らのグループが、災害に備える心構えを説いた2022年度版カレンダーを製作した。

グループは、東日本大震災（2011年）や西日本豪雨（18年）



高尾准教授らのグループが製作したカレンダー